

ネットいじめ・ 学校裏サイトの現実

全国webカウンセリング協議会 理事長 **安川 雅史**

●ケータイに縛られる子どもたち

ケータイにインターネット機能が1999年に搭載され、メール機能も搭載されていたために、中高生を中心に文字コミュニケーションの道具としてもケータイは大きく認知されました。さらにパケット定額制が導入されてからメールやネットに縛られていく中高生が増加していったのです。

食事の時も右手でお箸を持ちながら、左手で何不自由なくメールをしている子どもたちも増えています。ビニール袋に入れてお風呂場にケータイを持ち込む子もいます。勉強するときも、机の上にケータイを置かないと勉強が出来ないと言います。なぜなら、「友だちからメールがきたらすぐに返信しないと無視していると思われるから」と考えているからです。子どもたちは、自分が送ったメールに相手から返信が来ないと不安になるため、「ところで今、何してるの？」と質問形式の一文を加えて送信します。するとメールを受け取った人は、すぐにメールに返信しないと無視していると思われるのですぐに返信のメールを送ります。お互いに質問形式の一文が書かれているので、どうでもいいやり取りをいつまでも繰り返しメールを終わらせるが出来ません。

子どもたちの間には暗黙のルールが存在しています。そのひとつが「5分以内ルール」というもので、メールがきたら5分以内に返信しなくてはならないというものです。このため、メールを送った相手から5分以内に返信が無ければ、「自分は無視されているのかな……」と、だんだん不安になっていくのです。返信のスピードが遅い子どもや絵文字やデコメを送ることが出来ない子どもが、いつの間にか、学校裏サイトに悪口を書き込まれ、嫌がらせメールを受け取るようになってしまうこともあ

るのです。「氏ね（死ね）」「キモい」「うざい」と嫌がらせメールを5分おきに送りつけられ学校に行くのが怖くなり不登校になった子どももいます。

●プロフを悪用した卑劣ないじめ

学校裏サイトに「あの子、援助交際しているんだって」「あの子、性病持ちだから、みんなうつされないようにしようね」「あの子と仲良くすると友だちなくすよ」「明日からあの子と話すのやめようね」などと書かれ、書き込みの最後に噂になっているプロフにリンクが書き込まれた生徒がいました。プロフは誰かが勝手に彼女になりすまして作り上げたもので、いかにも援助交際をしているような内容がでっち上げられていました。

「職業：JK②、性別：パコられるほうだよお、趣味：H大好き（バックが特に好きい～、ここだけの話、お金もだーいすき☆イチゴ佐保で御願いね♪）」
というようなものでした。

当然、そのプロフをみた人たちは彼女が援助交際していると思い込み、クラスの中で誰も彼女と話をしなくなり、クラスの中では、いつも一人でいることが多くなりました。彼女の異変に気付いた先生は、クラスの生徒から事情を聞いて、彼女のプロフの存在を知ったのです。先生は彼女を職員室に呼びつけ、「おまえ、援助交際しているのか！」などとお説教をしてみました。彼女は学校に行きづらくなってしまい、転校せざるをえなくなってしまったのです。

誰かになりすまして簡単に他人のプロフを作ることはできてしまうのです。学校の先生にしっかりとした認識があれば、本来は、解決することができた問題なのです。先生という職業は大変です。昨年、うまくいった指導法



が今年うまくいくとは限らないのです。実は、先生方がしっかりとネットいじめの知識を持って対応することにより救える子ども達が沢山いるのです。

●学校裏サイトの加害者になった女児

小学6年生の女の子で学校では、大人しい子がグループの他の女の子からはよくからかわれている子がいました。グループ内ではからかわれても言い返すことができず、ストレスがたまり、自宅に帰ってから悪口を言った子達の誹謗中傷を実名で掲示板に書き込んでしまったのです。悪口を書かれた子達から相談を受けた担任の先生は犯人探しをし、加害者が判明しました。担任の先生は全生徒の家に「犯人がわかりました」と電話を入れ、校長にそのことを報告したのです。書き込みをした加害者の女児の家には校長が電話をいれました。「おたくのお子さんは犯罪者です。おたくではどういう子育てをしているのですか？ 明日全校集会をひらきますから全校生徒の前で、お母さんと娘さんと頭を下げて謝罪してください」校長からお母さんはこのような言葉を言われたそうです。

学校では目立たない子、いじめられている子が掲示板に普段のストレスから書き込みをしてしまうことも珍しくないのです。学校裏サイトでは誰が加害者になり、誰が被害者になるかわからないのです。学校側は、ただ犯人探しをするのではなく、なぜ、そのような書き込みをしてしまったのかもしっかりと加害者の子どもと話し合わなければならないのです。心のケアが必要なのは、被害者だけではないのです。加害者に対してもしっかりと心のケアをしなければ、学校裏サイトに誹謗中傷を書き込む子どもたちは減らないでしょう。

プロフィール

*安川 雅史 (やすかわ まさし)



全国webカウンセリング協議会の理事長としてネットいじめ・いじめ・不登校・ひきこもり問題に本格的に取り組む。全国各地より講演依頼を受け講演会を開催。年間200会場、延べ年間受講者数も3万人を超える。

文部科学省をはじめ各省庁でアドバイザー・専門委員等をつとめる。新聞・テレビ・ラジオ等メディアへの出演も多数。

著書：『家族とともに癒す不登校・ひきこもり』（文芸社）、
『「学校裏サイト」からわが子を守る！～ケイタイ・ネット社会の落とし穴』中経出版、ほか

用語解説

学校裏サイト：ある特定の学校の話題のみを扱う非公式の匿名掲示板。全国規模の他、学校別、学年別のものもある。多くは在校生や卒業生が立ち上げたもの。

プロフ：「プロフィール」の略で、携帯やパソコンを使って簡単に自己紹介ができるサイト。氏名や連絡先だけではなく、写真を添付し、趣味など詳しい個人情報を掲載するのが一般的。

ブログ：携帯やパソコンから作成できる、web上の日記のようなもの。コメント機能があり、ブログ作者に他人がコメントすることができる。

チェーンメール：届いたメールをそのまま複数の人に転送するよう求めるメールのこと。かつて「不幸の手紙」と言われたものの携帯メール版。

なりすましメール：自分のアドレスからではなく、他人のメールアドレスを使って送るメール。